

# 平成28年度 研究総論

## 1 研究主題について

### 研究主題 21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成

私たちは、幼小中一貫したすべての教育活動を通して、急激な社会的変化が予想される今後の21世紀をたくましく生き抜くことができる資質や能力を備えた子どもたちを育成したいと考えている。将来、家庭・職場・地域・社会における問題や状況に対して、自分のこととしてとらえ、他者との合意形成を図りながらよりよい方法を見付け出し、自主的・協働的に行動できる力を、子どもたちに身に付けて欲しい。そうした願いのもと、11年間の附属学校園での学びを通して、他者とともに自らの課題を追求・解決する過程にある学ぶことの真の楽しさにふれること、生涯にわたって学び続け、社会に寄与する人間に成長していくことを願い、私たちは一貫した教育活動を行っている。

現在、中央教育審議会教育課程企画特別部会において、育成すべき資質・能力が検討されており、次期学習指導要領改訂の方向性として図1のように示されている。そして、情報化、グローバル化など急激な社会的変化の中でも、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質や能力（何ができるようになるか）を確実に備えることが求められており、学習内容（何を学ぶか）などの見直しや学び方（どのように学ぶか）などの検討も併せて行われている。

これらのことを、それぞれの学校が、子どもの実態や地域の状況に応じてとらえ、学校教育目標をより具体的に達成するために教育過程を構成する「カリキュラム・マネジメント」を学校全体で行うことが求められている。

本学校園では、次のような子どもの姿として、3つの学校園教育目標を掲げている。

新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども  
豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける子ども  
人とのかかわりを大切にし、共に伸びていく子ども

本学校園の子どもたちが、教育目標に掲げたような子どもに育つように、我々は本学校園で大切にする資質・能力をとらえ、子どもたちにその育成を行う必要がある。

以上のことから、今次研究において、学校園教育目標の達成を目指し、本学校園の子どもに身に付けさせたい資質・能力をとらえ、変化の激しいこれからの社会を担う子どもたちを育てるために、研究主題を「21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成」として研究を進めることとした。

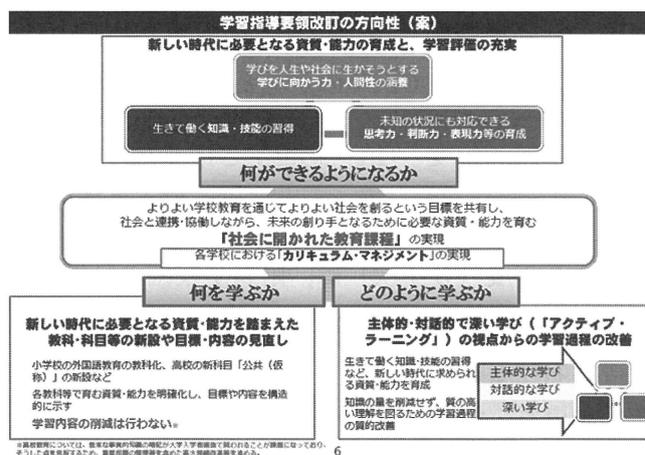


図1：学習指導要領改訂の方向性（案）

## 2 21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成に向けて(研究の計画)

研究主題「21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成」を目指して、以下のよう  
に3年間の研究を行う。

平成28年度 「21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成」  
～保育・各教科等における資質・能力の育成～

平成28年度（1年次）は、本学校園の子どもたちに身に付けさせたい資質・能力をとらえる。保育・各教科等において身に付けさせたい資質・能力を保育・各教科等の特性を踏まえて検討・整理する。そして、整理した資質・能力について、保育・各教科等の特性をいかした実践を重ねていく。授業実践については、主体的、対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点）になることを目指す。

平成29年度 「21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成」  
～11年間を見通した資質・能力の育成～

平成29年度（2年次）は、総合的な学習の時間や道徳、特別活動を含む保育・各教科等において、幼稚園から中学校までの附属学校園の11年間を見通してどのように子どもたちに資質・能力を育成していくのかを系統立てて検討する。

平成30年度 「21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成」  
～資質・能力を育成するためのカリキュラムづくり～

平成30年度（3年次）は、附属学校園の11年間を通して子どもの「21世紀を生き抜くための資質・能力」を育成するためのカリキュラムを検討する。2年次までに検討してきた保育・教科等における系統的なカリキュラムだけでなく、教育課程全般を総括した「21世紀を生き抜くための資質・能力」を育成するためのカリキュラムを検討していく。さらには、どのように資質・能力を評価していくのかについても検討していく。

なお、上述した具体的な研究の方向性については、今後、文部科学省から提示される内容によって随時変更していく。

## 3 本学校園における資質・能力のとらえについて

### (1) 21世紀を生き抜くための資質・能力策定の流れ

#### ① 保育・各教科等における、21世紀を生き抜くために本学校園の子どもに身に付けさせたい資質・能力のとらえ（2016年3月）

中央教育審議会企画特別部会『論点整理』補足資料（p.165）、「カリキュラム・デザインのための概念と、『学力の三要素』の重なり」を用いて、保育、各教科等で大切にしたいと考える資質・能力を、【個別の知識・技能】【思考力・判断力・表現力等】【主体性・多様性・協調性、学びに向かう力、人間性など】の3つの資質・能力の視点でとらえて検討した（図2）。保育、各教科から提出されたものを比較し、共通するキーワードや、21世紀を生き抜くために備えさせたいと考える資質・能力のキーワードを26種類抽出した（図3）。キーワードは、「コミュニケーション」や「マネジメント能力」「活用」や「相手意識」「願い」など広範囲、多層にわたる資質・能力をピックアップした。



これらの資質・能力を、合同職員会議（幼・小・中・大の教員が集まる職員会議）にて全体に提示し、保育・各教科部会でこれらに対する意見交換を行った。

#### ⑤ 教科主任者会の実施（2016年7月）

教科主任者会を実施して、保育・各教科部会での意見交換の内容や、保育・各教科でどのように資質・能力をとらえようとしているのかなどの考えを伝え合った。意見交換の内容からは、「10個は多い」や「カテゴリーの仕方がどうか」「きっぱり分けられるのではないのではないか」などの意見が出た。また、保育・各教科において考える資質・能力についての考えや悩みなどを共有した。

これらの意見や考えなどを受け、再度、21世紀を生き抜くために本学校園の子どもに身に付けさせたい資質・能力について検討した。

#### (2) 資質・能力の策定

表2：本学校園で捉えた5つの資質・能力

教科主任者会での意見など基にしてカテゴリー化し直して、21世紀を生き抜くために本学校園の子どもに身に付けさせたい資質・能力を「知識・技能」「問題解決能力」「創造力」「マネジメント力」「自己実現力」の5つにまとめた（表2）。

知識・技能	個別の知識・技能だけでなく、体系的な理解、概念的知識など
問題解決能力	問題発見、問題解決のための方略、見通す、思考力など（問題解決に関わること）
創造力	発想や直観、感性など
マネジメント力	コミュニケーション、リーダーシップ、企画・実行力、相手意識など
自己実現力	自己調整や自己肯定感、関心や願い、道徳性やメタ認知など

「知識・技能」には、例えば、個別の知識・技能だけでなく、体系的な理解、概念的知識など、生きて働く知識・技能も含まれると考える。次に、「問題解決能力」は、問題発見、問題解決のための方略、見通す、思考力など、問題解決に関わるものが含まれる。「創造力」には、発想や直観、感性などが含まれる。「マネジメント力」には、コミュニケーション、リーダーシップ、企画・実行力、相手意識などが含まれる。「自己実現力」には自己調整や自己肯定感、関心や願い、道徳性やメタ認知などが含まれる。

「知識・技能」は図1の【生きて働く知識・技能】に、「問題解決能力」は、【思考力・判断力・表現力等】に対応し、「創造力」「マネジメント力」「自己実現力」は【思考力・判断力・表現力等】及び【学びに向かう力、人間性等】の両方に対応すると考えている。

このように、策定した5つの資質・能力と図1で示した資質・能力（何ができるようになるか）は、対応している。

また、「創造力」「マネジメント力」は、学校園教育目標で掲げた育てたい子どもの姿を、育みたい資質・能力としてとらえたものである。「創造力」「マネジメント力」は、「問題解決能力」や「自己実現力」に含まれるとも考えられるが、学校園教育目標に対応しているため、それぞれを1つの柱として設定した。教科によっては、発想や感性、コミュニケーション力などが含まれる「創造力」「マネジメント力」を、より大切にしたい資質・能力として考え、授業や単元を構想すると考えられる。

以上のことから、「創造力」「マネジメント力」の2つが本学校園の資質・能力の特色であると言えよう。

### (3) 策定した資質・能力のモデル化

「知識・技能」「問題解決能力」「創造力」「マネジメント力」「自己実現力」の5つが、単独ではなく有機的に関わり、子どもたち一人一人に、21世紀を生き抜くための資質・能力が育まれると考える。それを表したのが図5である（暫定的にStar modelと名付ける）。

保育・各教科において、これら5つの資質・能力の全てが同じように育まれるわけではないと考えている。保育・各教科によって、より重要と考え、中心となる資質・能力に焦点をあてて保育・授業を構想していく。

また、保育・各教科において、中心となる資質・能力に焦点をあてるが、学びの内容や単元により、中心となる資質・能力は変化すると考えている。

そして、保育、各教科で育まれる資質・能力は、図5で示した資質・能力だけが身に付くとは考えていない。その教科でしか育むことができないその教科特有の見方や考え方などの資質・能力もあると考えている。図6に示す通り、保育・各教科等で育む資質・能力が、教科横断的・総合的に見たときに、互恵的に関連付けられ、教科の枠を超えた汎用的な資質・能力の育成につながると考えている。

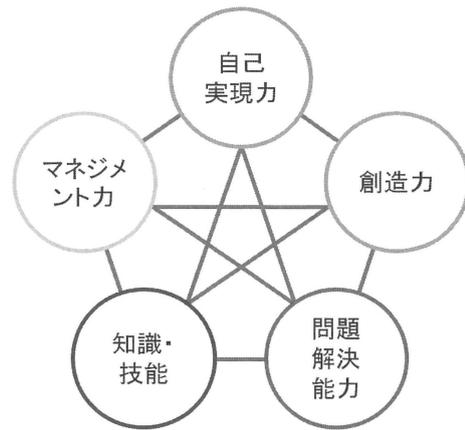


図5：Star model

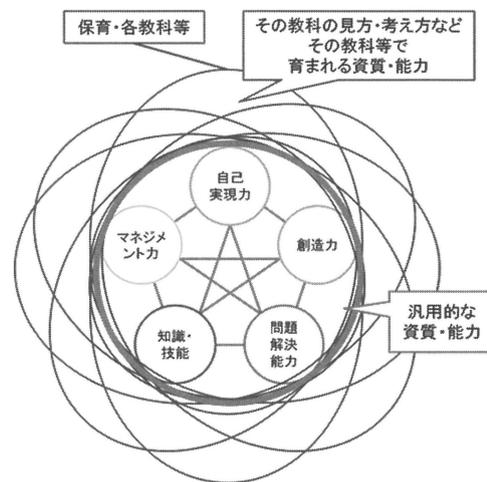


図6：汎用的な資質・能力の育成について

## 4 資質・能力を育むために

今年度、図5で示した5つの資質・能力について、保育・各教科でより大切にしたい資質・能力に焦点をあてて、保育・授業や単元を構成していく。これらの資質・能力を育むために、例えば、次に示す場面を設定したり、教師のはたらきかけを行ったりなどして、保育・授業を実践していく。

- 子どもが興味をもち解決したくなるように、単元や題材を工夫する  
(自己実現力，創造力)
- 子どもが解決への見通しをもてるように、めあてや課題を決めたり，問題解決の流れを考えたりする機会を設ける（問題解決能力）
- 子どもが考えたことをより深めたり掘り下げたりするために，問いかけや問い返しをする（自己実現力，問題解決能力）
- 子どもがお互いの考えをもちより，協働的に問題を解決するために，学び合いの場を設定する（マネジメント力）
- 子どもが学んだことを自覚したり，次の学習に繋げたりするために，見通しとふりかえりの視点を明確にする（自己実現力，創造力）  
など

保育・各教科等において焦点をあてた資質・能力について、どのようにとらえ、育もうと考えているか、詳細については、保育・各教科の構想、指導案及び保育・授業において示していく。

## 5 おわりに

今回、本学校園の子どもたちに身に付けさせたい資質・能力をとらえた。教員一人一人が、保育・教科等の視点で子どもたちにどのような資質・能力を身に付けて欲しいか考えたことやアンケートの結果などを、資質・能力の策定につなげたことで、教員の願いや思いが込められ、教育目標に即した資質・能力を策定することができた。このように、「21世紀を生き抜くための資質・能力」という視点で、本学校園の子どもたちの育てたい姿を共有することで、共通意識をもち、11年間を見通して子どもたちを育てることができると考える。特別に新たなことをたくさん行うのではなく、これまで行ってきたことを新たな視点でとらえなおし、研鑽していき、目指す子どもを育成していく。そして、これまで述べたような取組が、学校全体で行うカリキュラム・マネジメントの1つの姿であると言えよう。

また、資質・能力の育成について研究しているが、学習内容についても資質・能力を育成する視点でとらえなおしていかなくてはならない。

次年度、11年間を見通した「21世紀を生き抜くための資質・能力」の育成を検討していく。今年度、研究してきた保育・各教科等での資質・能力について修正しながら、11年間でどのように育んでいくのか系統立てていく。これによって、今回策定した5つの資質・能力が立体構造となり、より具体的に「21世紀を生き抜くための資質・能力」を育むことができると考える。

(文責 安野 洋)

### 【参考・引用文献】

- ・中央教育審議会特別部会教育課程部会教育課程企画特別部会，(2016)，資料2，次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイント，補足資料，p.6  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/02/1375316\\_2\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/02/1375316_2_1.pdf) (2016.11.14現在)
- ・中央教育審議会特別部会，(2015)，「論点整理」補足資料，p.162